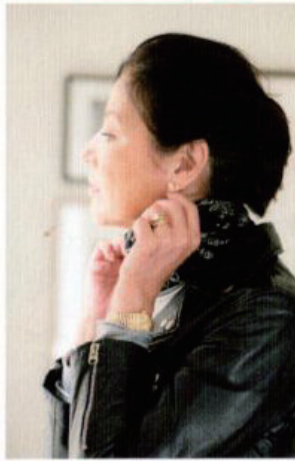
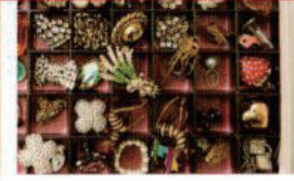




50人50様のエレガンス!

ずっと美しい人の マイ・スタイル



11

昔から黒と白がメインカラー。
スタイルのある女は30年ほど前から
ライダーズジャケットを愛用中



岩立マーシャ

クリエイティブディレクター



photographs:Shinsuke Matsukawa hair & make-up:Yu Kinoshita (Rossetto) text:Reiko Hakata

黒いライダースはいちばんのマイスタイル

岩立マーシャさんはファッションの好みはつきりした人である。30歳のときに、アメリカンヴォーグ誌のあるファッションページに魅了された。それはアメリカ初のライダースジャケットを作った本家本元のSchott社のライダース、白Tシャツ、チノパン、クロコのローファー、というスタイリングだった。以来ライダース愛用者だ。

「実は本物のSchott社のライダースはすごく固くて重い。でもオイルを塗ったり、踏んでなじませて着ていましたね」それから10着を着倒してきた。さすがに時を経てだんだん軽くて柔らかいレザーを選ぶようになった。いちばん最近は、Beautiful peopleのもの。コンパクトなサイズがお気に入りだ。定番のスタイルは、ライダースにタイトスカート。インはニットやカットソー。

「ジャケットは堅苦しくて着ません。だから羽織りものとしてライダースは私に

ぴったりなの。これにプリーツスカートやデニムを合わせたり、ワンピースに羽織ることも。何にでも合うのが楽ですね。合わせる色？ デニム以外はほとんど黒。あまり甘いのは好みじゃないので」

カットソーは圧倒的に縞々が好き。「ポーターは私にとってテッパンアイテム。多分、色や幅違いで30枚くらい持っています。それらをその日の気分で選んで組み合わせていますね」

こうして岩立さんのスタイルはでき上がる。好きなテイストはもちろん小物にも及ぶ。

「28歳のときに、清水の舞台から飛びおりるつもりでケリーバッグを買って以来、ずっと使っています。今は、黒のサイズ違いも。そういえばパーキンもカメラを選んで、これまた使い倒しています」

特にエルメスにこだわっているわけではない。バッグや靴はプラダも愛用している。

モノトーンが基調の色です

岩立さんのクロゼットの中は見事に

白、黒、グレー、ベージュのモノトーンだ。

「みな同じ色合いでしょ。時々探している見つからないこともあります(笑)」

そして、整理術は完璧だ。ポーターのカットソーはすべてクロゼットの引き出しに色別にしまわれているし、靴やブーツ類はすべて黒のボックスに収納。外からもわかるようにポラロイド写真が貼ってある。美しい収納はまた美しいインテリアを実現する。リビングなどの空間には、無駄なものはいっさいなく、新旧のアートやアンティーク類がほどよく配され、まるでアートギャラリーのようだ。物が多のに雑然としないテクニックは服と同じ、テイストが統一されているから。「以前はいらないと思ったら処分することが多かったけど、最近はずっと一緒に共存しようと思うようになりました。エコかな?(笑)」

アクセサリーはほぼダイヤとゴールドだけで、腕にはゴールドのロレックス。これは若い頃パリで購入。

「バッグも時計も30年以上にわたって使っているから元はとれた気がします(笑)」

この変わらぬ審美眼が貫かれた姿勢がカッコいいことこの上ない。

(P40-41)いつものスタイル。食事会などにはコットンパールのネックレスで華やかに。1 リングとピアスはゴールドとダイヤの重ねづけ。モノトーンを彩るアクセント。2 リビングの一角。アートやアンティークなどがセンスよく置かれている。3 ワークスペースの壁面。帽子や大ぶりのアクセサリー、メモボードなどを配して。4 レストランのメニュー提案やテーブルコーディネートも仕事の一部。おいしくて美しい! 5 庭仕事は目下いちばん好きなこと。

いわたて まーしゃ ● クリエイティブディレクター。ファッション広告を経て、レストランおよび新規ブランドの総合プロデュースを手がける一方、日本や韓国の建築、デザイン、料理を紹介する書籍の執筆も行う。

- 1955 アメリカ・ワシントン D.C.生まれ
- 1975 サザビー、シエラ熊谷喜八氏と「シルバー・スプーン」開店
- 1977 ジュン、トキオ・クマガイ・インターナショナル、イントリグのショーや広告のディレクションを行う
- 1992 春秋の「春秋響」広尾などをプロデュース
- 2000 執筆活動を始める
- 2005 M&Bを設立。家具、照明器具などのブランドプロデュースを行う